

平成27年12月  
第007号

山家神社社務所  
sanadashrine.com/yamaga  
〒386-2201 上田市真田町長 4473  
Tel.0268(72)5700

# 山家 慎聞

## 山家郷塾理念

一、自然の恵みと祖先の恩に感謝し、日々お蔭さまの心を以て郷生の道を歩むこと

一、地域の歴史・文化・伝統を学び考へ今を照らし、故郷の振興と再生を図ること

一、永遠と続く歴史の中にある今を意識し、祖先から受け継いだモノを守り伝えること

## みめぐみ

十一月二十三日新嘗祭（いなめさい）を執り行い、農事を始め万の産業の実りに感謝申し上げます。今年は自治会をはじめ故郷を大切に思う多くの方々のご協力により、四阿山頂上の奥宮を人力だけで木造に戻すという種を植えました。未来の子供たちに、蛇口をひねる水から遠く御山を感じてもらいたいと願い…。

すると、染屋うまい米生産組合の方より「うちも神川の恵みを頂いているから」とお米の奉納があり、BSプレミアムでは百名山として取り上げられ、さらには調べている内に真田氏と白山信仰との深いかかわりが明らかになってきたとNHKから連絡が…。  
なにかしらの大きな動きを感じずにはおれません。最近の観光では真田氏が大切にされたものの視点がなく、人物だけを追う傾向が強い。その逆の流れが真田発祥の地を後押しするはずと信じ：押森 慎

## 結ゆい営業開始

皆様の子供の頃のお祭はどうでしたか？私はワクワク楽しいものでした。その想いを子供たちにも伝えたいと思い、去年より縁日風のお店を出してしまいました。そこから発展し、とうとう店舗をかまえる運びとなりました。簡単なお茶も飲めます、手作り雑貨があります、賑やかな姉がいます。農作業の休憩は神社境内で腰掛けて、遊びにすれば誰か話し相手がいいて、鎮守の柱に癒される。自然と人と物をつなぐ、そんな場所にしていきます。（ゆざつく）  
「暇していて気が引けるので遊びに来てください。」

## 子安様の話

十一月二十八日、真田の逸物会の皆様により子宝石の奉納魂入の神事が行われました。子安社は享保十五年（1730）上田藩主松平忠愛公のお姫さまが安産であり、その御礼と上田地域の子供たちのために願い修復されたお社です。（棟札短刀が現存）参拝される人が少なくなってもそこに込められた想いは今も変わることはありません。真田の未来を願って：

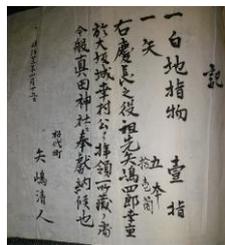


「斉藤さん伝授の安産の祈願方法を今に繋げていきたいです。」



## 第2回 伝えよ！真田神社

信州は真田の郷に鎮座する真田神社には明治時代の幟が残されているが今は掲げることはない。拝殿を覆う六文銭の大きな御神幕には大正の年号及び真田区と書かれている。真田の民が先祖より慕っていた真田氏を想う心と、松平の殿様を想う心が、明治になり創建された温もりを感じる。それが証拠に『信濃寶鑑』に載る神社の位置は山家神社より右上の方向に描かれている。そこには松代へお供した家臣より多くの宝物が奉納された。その一つに「右慶長之役祖先矢嶋四郎幸重於大坂城幸村公ヨリ拝領所蔵ノ品今般真田神社仁奉獻納候也  
松代町 矢嶋清人」とある。



## お宮とお寺の仲良し小話 習合編②

私たちは仏教が瑞穂の国（日本）に伝わるまで、自らが根がす大地から感じ取り、教わったものしか知りませんでした。尊い仏像、有難い経典、教え導く僧侶、そこにはすべてがありました。そして私たちに大きな木、大きな岩、きれいな川、そびえる山：つまり祈る先には何もなかったのです。いえ、あらゆる命を育み、時に厳しく時に優しい存在が確かにあったのです。あったのですが、目に見えるものではありませんでした。今神道と呼ばれているのも仏教に対し、古い書物にあった「惟神かむながらのみち」を取り、自然と人が共に歩み続ける道と表現したからであります。



→ 券をお持ち下さい